

NHK交響楽団

2023年度 事業計画

基本方針

N響は3年後の2026年に創立100年を迎える。伝統に培われた最高水準の演奏とデジタル時代に則した多様なサービスによってファン層の拡大を図り、N響100年に向けて存在感を示していく。とりわけ若い世代や外国人など新しいファンを呼び込むことは喫緊のテーマであり、公演のスタイル、券売、広報プロモーションなどを進化させ、国の内外に”身近なN響”をアピールする。NHK財団との統合によって、N響は、NHKグループの社会貢献事業の旗頭に位置付けられている。NHK財団と連携した新たな社会貢献の創出や室内楽メンバーの全国展開などを通じて地域と社会に役立つ活動を担う。あわせて番組や地域放送局と連動した事業にも意欲的に取り組み、視聴者リレーションに寄与する。NHK財団と連携したガバナンスや財務の強化、テレワーク環境の整備を通じて経営の基盤を強固にするとともに、新しい経営課題に対応するための業務改革を進める。

重点施策と行動計画

1. 多彩な公演とサービスの充実でファンを増やす

- ・主催の定期公演、特別公演は、世界の巨匠たちや日本の気鋭の音楽家らとの共演を通じ、“N響ならではの”質の高い演奏を届ける。ファン投票で選曲した2000回目の定期公演や日本を代表する著名な指揮者の引退公演など、メモリアルな企画でファンを惹き付ける。サービスでは、終演後の客席からのカーテンコール撮影やチケットの販売システムの刷新、公式YouTubeチャンネルによる配信の更なる充実などでファンの増を図る。また、地域放送局や各地の財団などと連携した地方での公演を全国で展開し、NHKのブランド力向上につなげる。

2. 若い世代や外国人など新しいファン層の開拓

- ・25歳以下の「ユースチケット」は割引率50%以上、一部のプログラムの800円席設置を継続し、団体で来場した児童、生徒のバックステージツアーを行う。定期公演の聴きどころをダイジェストで紹介する「ウェルカム・コンサート」を開催し割引ペアチケットやユースの格安席を設ける。NHKと共催して全国の学校を回る「NHKこども音楽クラブ」、幼児向けの催し「N響といっしょ！音を楽しむ!!」でファンの裾野を広げる。外国人に向けては、英語版券売サイト開設やインバウンドに向けた販売網拡大、留学生招待を通じて認知度を上げる。

3. 社会や地域に貢献しN響の存在感を示す

- ・NHK財団と連携し、楽員たちが各地の学校でワークショップ方式の参加型学習を開発し、この音楽体験教室の番組化を目指す。NHK財団と連携し、聴覚障がい者でも音を聞き取れる特殊な装置を活用した音楽鑑賞の取り組みを継続する。共働きや一人親の世帯を支援するNPO法人などと連携し、夏休みのファミリー向けの「N響ほっとコンサート」などに子供たちを招待する。各地の病院や施設を訪問して室内楽コンサートを開く他、「NHKこども音楽クラブ」の一環として災害の被災地を訪ねるなど、NHKグループの社会貢献の一翼を担う。

4. 放送と連携し視聴者リレーションに貢献

- ・放送開始から60年を迎える大河ドラマや4月からEテレで放送される青春アニメ「青のオーケストラ」と連動した本格的な公演を開催し、放送を後押しする。これらの番組を題材に地域放送局が行うふれあいイベント、地方公演に先立つプレイベント、協力関係にある地域のケーブルテレビの催しなどに室内楽のメンバーを積極的に派遣し、視聴者リレーション活動を支援する。この他、N響の定期公演や第九などの特別公演は、Eテレの「クラシック音楽館」などのテレビやFMなどでも放送され、全国のクラシックファンの期待に応える。

5. NHK財団と連携したガバナンス強化と効率的な業務運営

- ・NHK財団と連携した実地監査を行いチェック機能を高める。円安などの影響が懸念される中、公演ごとの収支や業務の評価を行う管理会計を通じて財政安定化を図る。広報や券売、公演運営などの既存業務を部分的にNHK財団や外部に委託して効率化し、新たなファンの開拓や社会貢献事業などに振り向けるパワーシフトを行う。テレワーク環境は、財団統合に伴う経理システムや事務インフラの共通化、各種サーバーの改修などによって整いつつある。各職員向けの端末の整備を進めリモートワークや事務のペーパーレス化の下地を整える。

収支計画・予算

(単位 億円)

経常収益	当期一般正味財産増減
29.9	△1.2